

四国中央市自殺対策計画中間評価

四国中央市では、平成 31 年 3 月に自殺対策計画を策定し、その対策に取り組むことで計画を推進してまいりました。本市の計画における当面の目標値として、平成 27 年の自殺死亡率（人口 10 万人あたりの自殺者数）18.3 を令和 6 年には 30%減少させて 12.8 以下にすることを目指しています。

全国的に、年間自殺者数は平成 22 年以降減少傾向にあり、令和元年は 1 万 9 千人台となりました。しかし、令和 2 年には再び 2 万人を超え、令和 3 年についても同様となっています。当市においても減少傾向ではあるものの、令和 3 年の自殺死亡率は 16.4 となっており、今もなお自ら命を絶つ方がおられることは地域の課題であり、引き続き計画に沿って自殺対策に取り組む必要があります。

①アンケートによる評価

指標の内容	平成30年度 計画策定時	令和3年度 実績	令和6年度 計画策定時目標	今後の目標値
悩みがあるときに、誰かに相談したいと思う人の割合	63.2%	67.8%	80%以上	80%以上 (継続)
ゲートキーパーを知っている人の割合	9.3%	15.4%	30%以上	30%以上 (継続)
「自殺は社会の問題である、追い詰められた末の死である」と捉える人の割合	72.0%	65.9%	90%以上	90%以上 (継続)
「自殺は自分にはあまり関係ない」と思う人の割合	17.6%	13.9%	5%以下	5%以下 (継続)
「悩みを家族、友人等日頃かわっている人に相談する」人の割合	80.8%	83.8%	90%以上	90%以上 (継続)
各相談窓口を知っている人の割合	31.5%	73.9%	50%以上	80%以上 (新規)
必要時に精神科または心療内科を受診しようと思う人の割合	5.1%	1.7%	20%以上	20%以上 (継続)
自殺対策に関する啓発物に目を通す人の割合	69.9%	75.0%	90%以上	90%以上 (継続)
身近に相談できる人がいる妊婦の割合	98.2%	98.9%	100%	100% (継続)
中学1年生のうち相談できる人がいる生徒の割合	87.8%	89.2%	100%	100% (継続)

『「自殺は社会の問題である、追い詰められた末の死である」と捉える人の割合』と『必要時に精神科または心療内科を受診しようと思う人の割合』では割合の減少がみられましたが、それ以外の項目では計画策定時に比べ、数値の改善がみられました。しかし、計画策定時の目指す目標値には達していない項目がほとんどであるため、今後も引き続き、心の健康や自殺予防に関する理解を深められるように市民への啓発と周知に取り組みます。

(参考) 四国中央市自殺対策計画 中間評価市民アンケート

実施期間：R3.8.17～R3.8.31

対象：20歳以上69歳以下の市民1,000人(無作為)

方法：質問票の郵送

回答数：352名(35.2%)

※身近に相談できる人がいる妊婦の割合及び中学1年生のうち相談ができる人がいる生徒の割合は保健推進課による事業時に回収されたもの

②事業による評価

指標の内容	平成30年度 計画策定時	令和3年度 実績	令和6年度 計画策定時目標	今後の目標値
こころの健康リーフレットの配布枚数	3,000枚	7,425枚	7,000枚	8,000枚 (新規)
各課から関係機関職員等にゲートキーパー研修受講を勧奨した回数	1回	5回	40回	40回 (継続)
企業でのまちづくり出前講座実施回数	6回	0回	15回	15回 (継続)
発達マイノリティに関する理解促進等の研修会等の参加人数	200人	311人	400人	400人 (継続)
ひきこもり状態にある人を他機関へつないだ人数	0人	2人	5人	5人 (継続)
障がい者就労移行支援事業所を通じて就労へつながった人数	10人	1人	15人	15人 (継続)
児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会等研修会への参加人数	3人	2人	10人	10人 (継続)
養育支援訪問事業訪問回数	129回	243回	150回	250回 (新規)
認知症サポーター数 (延べ)	10,226人	14,049人	15,000人	15,000人 (継続)
集いの場 (貯筋体操サークル) 実施箇所数、参加者数	60か所 1,136人	75か所 1,052人	90か所 1,500人	90か所 1,500人 (継続)
養護老人ホームの入所者数	共楽園 45人 敬寿園 20人	共楽園 50人 敬寿園 50人	共楽園 50人 敬寿園 50人	共楽園 50人 敬寿園 50人 (継続)

新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、特に不特定多数が集まる事業について予定通りに実施できず実績数の減少がみられましたが、個別対応については感染対策のもと事業を実施することで数値の改善がみられ、支援を必要とする方への事業実施を推進できたのではないかと考えられます。

相談窓口を掲載した『こころの相談窓口リーフレットの配布枚数』については、全庁的にあらゆる機会を捉えて配布することができ、目標を大きく達成したため、新たな目標を設定し、引き続き全庁的に取組を進めていきます。

令和4年8月

四国中央市 市民部保健推進課